

# 国語

## (中学校第2学年)

### 注 意

- 1 「始め」の合図があるまで、中の問題を見てはいけません。
- 2 下の欄に、組、出席番号、名前を書きなさい。
- 3 「始め」の合図があったら、別に配られている解答用紙に、組、出席番号、名前を書き、「A問題（基本）」から始めなさい。
- 4 問題用紙は、全部で10ページあります。  
 「A問題（基本）」は、6ページで、問題は  まであります。  
 「B問題（活用）」は、4ページで、問題は  まであります。
- 5 問題に取り組む時間のめやすは、「A問題」が25分、「B問題」が20分です。  
 時間に気をつけて解きなさい。  
 早く終わったら、先に進んで解いても、もとにもどって解いてもかまいません。
- 6 答えは、解答用紙の決められた場所に、はっきりと書きなさい。
- 7 印刷がはっきりしなくて読めないときは、だまって手をあげなさい。  
 問題の内容などの質問には答えられません。

	問題番号	時 間
A問題（基本）	<input type="text" value="一"/> <input type="text" value="二"/> <input type="text" value="三"/> <input type="text" value="四"/>	25分
B問題（活用）	<input type="text" value="一"/> <input type="text" value="二"/>	20分
合 計		45分

2年	組	番	名前
----	---	---	----

## A 問題

(二十五分)

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(1)～(6)は、段落の番号である。)

- ① 死んだ父は①筆まめな人であった。
- ② 私が女学校一年で初めて親元を離れたときも、三日にあげず手紙をよこした。当時保険会社の支店長をしていたが、一点一画もおろそかにしない大ぶりの筆で、「向田邦子殿」と書かれた表書きを初めて見たときは、ひどく□。父が娘宛ての手紙に「殿」を使うのは当然なのだが、つい四、五日前まで、「おい、邦子！」と呼び捨てにされ、「ばかやろう！」の罵声やげんこつは日常のことであったから、突然の変わりように、こそばゆいような晴れがましいような気分になったのであろう。
- ③ 文面も折り目正しい時候の挨拶に始まり、新しい東京の社宅の間取りから、庭の植木の種類まで書いてあった。
- ④ ふんどし一つで家じゆうを歩き回り、大酒を飲み、かんしゃくを起こして母や子供たちに手を上げる父の姿はどこにもなく、威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親が②そこにあつた。
- ⑤ 暴君ではあつたが、⑦ハンメン照れ性でもあつた父は、他人行儀という形でしか十三歳の娘に手紙が書けなかつたのであろう。もしかしたら、日ごろ気恥ずかしくて演じられない父親を、手紙の中で

やってみたのかもしれない。

- ⑥ 手紙は一日に二通来ることもあり、一学期の別居期間にかなりの数になつた。私は輪ゴムで束ね、しばらく保存していたのだが、いつとはなしにどこかへいつてしまった。父は六十四歳でなくなったから、この手紙のあと、かれこれ三十年付き合つたことになるが、①ヤサシイ父の姿を見せたのは、この手紙の中だけである。

(向田邦子「字のない葉書」による)

※ 女学校：旧制の高等女学校。十三歳で入学した。

問一 文章中の——線⑦、①のカタカナを漢字に直して書きなさい。必要な場合には、送りがなをつけなさい。

問二 文章中の——線①「筆まめ」とは、どういう意味か。最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 手紙をよく書くこと
- イ 手紙をあまり書かないこと
- ウ 筆づかいが上手なこと
- エ 筆づかいが下手なこと

問三 文章中の  に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ほのぼのした
- イ なつかしかった
- ウ びっくりした
- エ たのしかった

問四 この文章には、「文中、私を貴女あなたとよび、『貴女の学力では難しい漢字もあるが、勉強になるからまめに字引を引くように。』という訓戒くわいかいも添えそられていた。」という一文が省略されている。この省略された一文を、どの段落の直前に挿入するのが最も適切か。文章中の  1 から一つ選び、番号で答えなさい。

問五 文章中の — 線② 「そこにあった」の「そこ」が指し示している言葉を文章中から四字で抜き出して答えなさい。

問六 文章中には、父親の性格や人柄を作者が想像して書いている段落がある。その段落を、文章中の  1 から一つ選び、番号で答えなさい。

次のページに、 2 の問題があります。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(1)〜(9)は、段落の番号である。

1 温かい牛乳を飲むために、カップに注いだ牛乳を電子レンジの中に入れて、時間などを設定し、スタートボタンを押します。すると、牛乳は、わずか四十秒程で飲み頃の温度になります。私たちが毎日のように使っている電子レンジは、火を使わずに物を温めることができる、とても便利な調理機器です。

2 火を使わずに加熱ができるのは、どのような仕組みによるのでしょうか。

3 電子レンジのスタートボタンを押すと、庫内に、「マイクロ波」が発生します。マイクロ波は、エネルギーをもつ電波の一種です。直接見ることはできませんが、測定器を使うと、図1のような波の形に見えます。

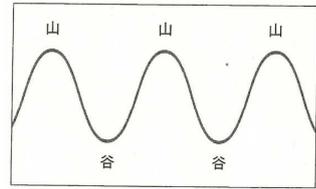


図1 測定器を通して見られるマイクロ波の形

4 庫内にまんべんなく照射されるマイクロ波は、あらゆる角度から食べ物に当たります。食べ物は、さまざまな種類の小さな粒から形づくられています。マイクロ波は、その中の水を形づくっている粒だけにはたらかかけます。図2は、水の粒を簡単な形で表したものです。

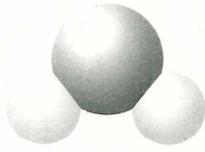


図2 水の粒の形

5 水の粒は、当たったマイクロ波の山の側や谷の側に応じて一八〇度回転して向きを変えます。マイクロ波は、一秒間に二十四億五千万回も、山の側と谷の側が入れ替わりながら

進み、水の粒はそれぞれに合わせて、高速度で回転します。さらに、たくさん水の粒が隣り合っており、それらが一斉に激しく回転すると、水の粒どおしが「おしくらまんじゅう」のようにこすれ合い、振動して熱が発生します。

6 野菜や果物は重量の八十パーセントから九十パーセント、魚・肉などは七十パーセント前後が水分ですから、マイクロ波の影響を受けて加熱されるのです。一方、容器となっている陶器やプラスチックなどは、水を含まないので加熱されません。

7 電子レンジがつくられるまで、食べ物の加熱は、火によって熱を「伝える」ものでした。食べ物に熱が加わると、そこから、食べ物を形づくっているさまざまな種類の粒が熱のエネルギーを受けて振動し始めます。外側から熱を加え続けると、粒の振動によって発生した熱が隣り合う粒を振動させ、そこで熱を発生させます。こうして、熱がだんだんと内側に伝わっていきます。

8 粒を振動させることが加熱の原理であるのなら、他の方法でも、振動を起こせば加熱ができるのではないか。ここに、従来の考え方にとらわれない、発想の転換があったのです。マイクロ波は、食べ物の中を透過し、水の粒を位置にかかわらず回転させるので、全体を同時に温めることができます。

9 私たちの身のまわりに関心を向けると、発想の転換によって生み出されたものを、ほかにも見つけることができます。最近普及している、IH調理器も、火ではなく磁力のはたらきで鍋自体を熱することによって、中身の食べ物を加熱します。現代の私たちの生活は、このような柔軟な発想による技術に支えられているのです。

(古田ゆかり「電子レンジの発想」による)

問一 文章中の——線⑦、①の漢字の読みがなを書きなさい。

問二 文章中の——線「一種」の「種」の字を行書で書いた場合、同じ部首になるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。



問三 文章中の——線①「水の粒」について、マイクロ波を当てることで、水の粒にはどのような変化がもたらされるか。その変化がわかる段落を、文章中の①～⑨から一つ選び、番号で答えなさい。

問四 文章中の①～⑦の段落を、段落相互の関係を考えて、三つの内容に分けるとどうなるか。最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア	①	①	①	①
イ	②	②	②	②
ウ	③	③		
エ			③	③
	④	④	④	④
	⑤	⑤	⑤	⑤
	⑥		⑥	
		⑥		⑥
	⑦	⑦	⑦	⑦

問五 文章中の——線②「粒を振動させることが加熱の原理であるのならば、他の方法でも、振動を起せば加熱ができるのではないか。」について、この考え方によって作り出されたものを、⑧の段落の内容をふまえて、文章中から五字で抜き出して答えなさい。

問六 この文章の要旨として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 食べ物の加熱の仕方について具体的な例を挙げながら、これまでの考え方を参考にすることの重要性を主張している。
- イ 食べ物の加熱の仕方について具体的な例を挙げながら、今後開発される便利な調理機器の重要性を主張している。
- ウ 食べ物の加熱の仕方について具体的な例を挙げながら、新しく開発されたIH調理器の重要性を主張している。
- エ 食べ物の加熱の仕方について具体的な例を挙げながら、これまでにない考え方の重要性を主張している。

【三】

山口さんの学級では、「お気に入りの場所」というテーマに沿って、スピーチ発表会を行うことになりました。次は、山口さんが使った【スピーチメモ】と【山口さんのスピーチの内容】です。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

【スピーチメモ】

- ① お気に入りの場所：「映画館」
- ② 目的：「気分転換」
- ③ 効果：「日頃の疲れが吹き飛ぶ」、「悩みが気にならない」
- ④ 映画館の利点：「映画の世界に入りこめる」

【山口さんのスピーチの内容】

私のお気に入りの場所は、映画館です。私は、映画館に行き、一人で映画鑑賞をして、気分転換を行っています。映画を鑑賞するだけではなく、映画館に行ってだれにもじやまされずにポスターやパンフレットなどをながめるだけでも映画の世界に入りこめるので、気分転換になります。

映画館の大きなスクリーン、整った音響設備の中で、ゆったりとしたシートに座り、映画をみると日頃の疲れが吹き飛んでしまいます。また、悩みごとがあっても、映画をみると悩んでいたことが気にならなくなります。

皆さんもたまには映画館に行ったり、映画鑑賞をしたりしてみてくださいでしょうか。

問一

【スピーチメモ】と【山口さんのスピーチの内容】を比べると、【スピーチメモ】の④を②の直後に話していることがわかります。スピーチの順序を入れ替えることの効果として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 目的と理由が結びつき、話がわかりやすくなる。
- イ 原因と結果が整理されて、話がわかりやすくなる。
- ウ 共通点をはっきりして、話がわかりやすくなる。
- エ 相違点をはっきりして、話がわかりやすくなる。

問二

山口さんのスピーチを聞く上で、気をつけなければならないこととして、適切ではないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 足りない情報がないか確認しながら聞く。
- イ 話し手の意図をとらえながら聞く。
- ウ 状況に応じて質問できるように聞く。
- エ 自分の意見や考えとは切り離して聞く。

問三

次の【聞き取りメモの一部】は、山口さんのスピーチを聞いた生徒が作成したものです。【山口さんのスピーチの内容】をもとに、【聞き取りメモの一部】の□に当てはまる言葉を、二字の熟語で答えなさい。

【聞き取りメモの一部】

- 場所：映画館
  - よさ：映画の世界に入りこめる
  - 効果等：気分転換、疲れや悩みの軽減
  - 疑問：気分転換などのほかに、一人で映画館に行くことによるメリットは、どのようなことがあるのか？
- 山口さんの□

**四**

生徒会役員の三木<sup>みき</sup>さんは、生徒会の集会で「中学校生活」について新一年生に向けて話をするつもりになりました。次は、三木さんが作成した【レポート】と【資料1】、【資料2】です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

【レポート】

中学校生活について

1 はじめに

新入生は、中学校生活を楽しみにしている一方、心配や不安もあると思います。そこで、みなさんが安心できるように、西中学校の2、3年生に、1年生の頃を振り返ってもらい、次の2点についてアンケート調査をしました。

- (1) 中学生になってよかったこと
- (2) 中学生になって困ったことやその解決方法

2 調査の方法

アンケート（西中学校 2、3年生 160人）

3 調査の結果

まず、「中学生になってよかったこと」の回答についてです。これは【資料1】に示しました。…（中略）【資料1】によれば、一番多かった答えは、**ア**でした。**イ**と合わせると50%以上にのぼり、半数以上の人々が、交友が広がったことに対して、よかったと感じていることがわかりました。…（中略）

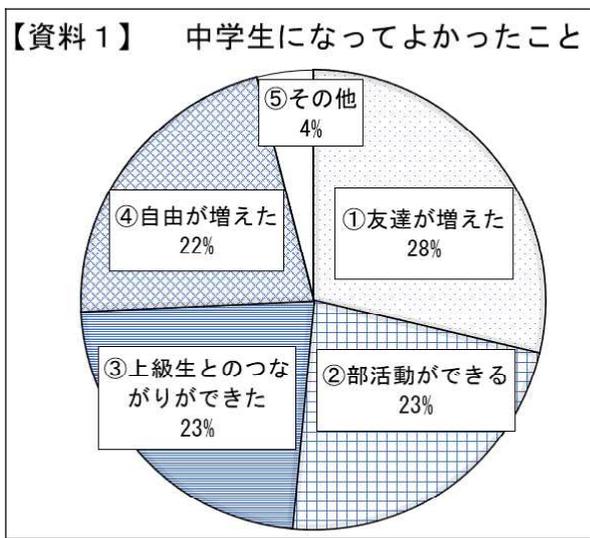
次に、「中学生になって困ったこと」についてです。これは【資料2】にまとめました。…（中略）

4 まとめ

西中学校は、複数の小学校から生徒が入学します。はじめは知らない人もいて緊張すると思いますが、きっと新しい友達ができるので安心してください。また、上級生との関係を不安に思っている人がいるかもしれません。しかし、安心してください。西中学校では生徒会活動が盛んで、上級生とは委員会活動などで学年をこえて活動することが多く、親しくなる機会も増えてくるので大丈夫です。

他にも、**ウ**。でも、大丈夫です。上級生や友達に理解できるまで聞くことでほとんどのことが解決できるからです。それでもわからない時は先生に聞きましょう。先生が丁寧に教えてくださいます。

ぜひ、楽しい中学校生活を送れるよう、いっしょにがんばっていきましょう。



【資料2】 「見出し」

	具体的な内容
学習に関する こと(72%)	内容が難しくなったこと
	覚えることが多くなったこと
友達に関する こと(24%)	新しい友達をつくるのに時間がかかったこと
	部活動などで友達と遊ばなくなったこと
生活に関する こと(4%)	すいみん時間が短くなったこと
	通学時間が長くなったこと

問一 三木さんの【レポート】中の**ア**と**イ**に当てはまるものとして最も適当なものを、【資料1】から読み取って、①～⑤の番号で、それぞれ答えなさい。

問二 【資料2】に「見出し」をつけるならどのような見出しをつけるのが適当か、【レポート】中の言葉から抜き出して書きなさい。

問三 三木さんは、【レポート】と【資料1】、【資料2】を担当の先生に見てもらいました。すると、先生から、【レポート】の**ウ**には、【資料2】について、最も割合が高かったことに触れて書いた方がよいと助言をもらいました。**ウ**を【レポート】の目的に沿って、四十字以上、六十字以内で書きなさい。

B 問題

(二十分)

川口<sup>かわぐち</sup>さんの学級では、国語の授業で「普段使っている言葉」について、【資料1】、【資料2】、【資料3】を利用して報告を行うという学習をしました。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

【資料1】

- 新しい表現や、慣用句等の意味・言い方  
聞いたこと、使ったことがある言い方

(数字は%)

	聞いたことがない	聞いたことはあるが使うことはない	使うことがある	分からない
(1) ほぼほぼ完成している	31.0	41.2	27.3	0.5
(2) 開始の時期を後ろ倒しにする	42.5	44.5	12.3	0.7
(3) 上から目線の言い方をされた	4.8	37.2	57.4	0.6
(4) 彼とはタメ口で話をする	12.6	35.2	51.0	1.2
(5) ガチで勝負をする	11.1	46.9	41.1	0.9
(6) 自分の立ち位置を確認する	10.1	40.5	48.5	0.9

平成29年度「国語に関する世論調査」(文化庁)により作成(一部変更がある)

[ 【資料1】から分かること ]

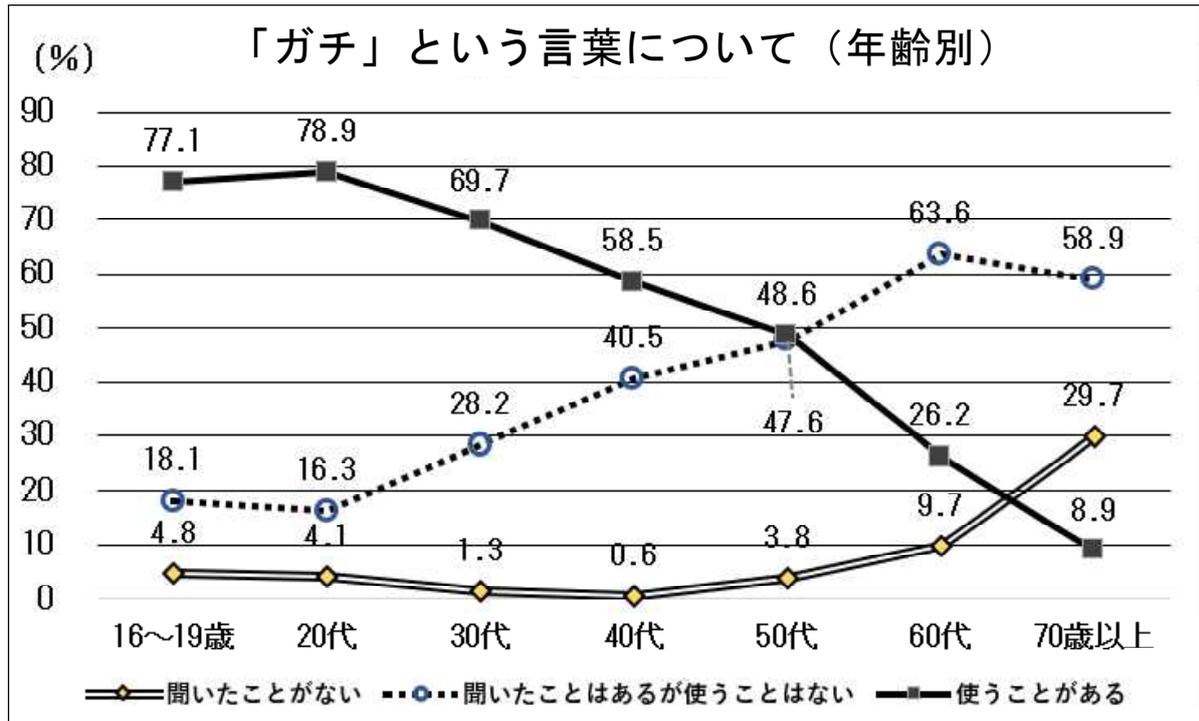
表に挙げた六つの言い方について、聞いたことがあるか、また、使ったことがあるかをそれぞれたずねた。

「聞いたことがない」は、(2)「後ろ倒し」が42.5%と、次いで(1)「ほぼほぼ」(31.0%)となっている。「聞いたことはあるが使うことはない」は、(5)「ガチ」が46.9%と 、次いで、(2)「後ろ倒し」(44.5%)となっている。

「使うことがある」は、(3)「上から目線」が57.4%と 、次いで、(4)「タメ口」(51.0%)、(6)「立ち位置」(48.5%)となっている。

【資料2】

平成29年度「国語に関する世論調査」(文化庁)により作成(一部変更がある)



平成29年度「国語に関する世論調査」（文化庁）により作成（一部省略がある）

問一 【資料1】から分かることとして、適当なものを、次のア～エから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ほぼほぼ」を「使うことがある」、「聞いたことはあるが使うことはない」と回答したのは八割以上である。
- イ 「上から目線」を「聞いたことがない」、「分からない」と回答したのは一割以下である。
- ウ 「立ち位置」を「使うことがある」と回答したのは他の表現や言い方等と比べると上位から三番目である。
- エ どの言葉も「分からない」と回答したのは一割以上である。

問二 【資料2】の□には、同じ言葉が入ります。四字以内で答えなさい。

問三 川口さんは【資料1】と【資料3】をもとに「ガチ」という言葉について、詳しく報告しようと考えました。あなたが川口さんであればどのような内容を報告しますか。次の（条件）に従って書きなさい。

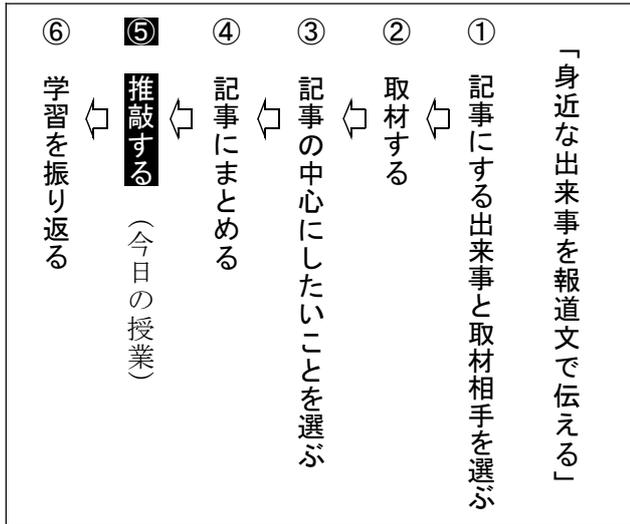
（条件）

- ・ 報告は、「使うことがある」に着目して、六十字以上、八十字以内で書くこと。
- ・ 最初に、【資料1】から、必要となる割合について、報告すること。
- ・ 次に、【資料3】から読み取れることをもとに、全体的な使用状況について、客観的に分かることを書くこと。
- ・ 段落は設けずに書くこと。

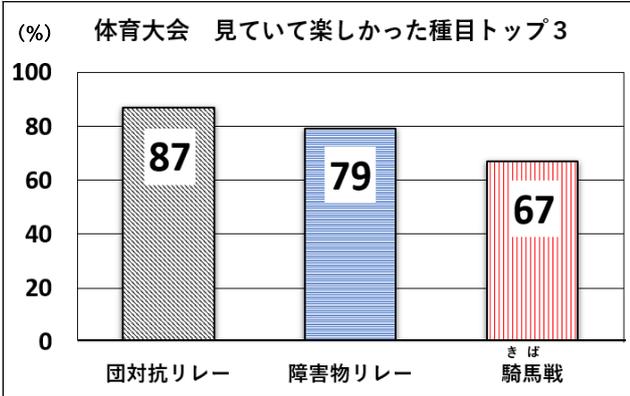
二

黒木さんの学級では、「身近な出来事を報道文で伝える」という国語の学習で、新聞を作成しています。今日の授業では、自分が作成した【新聞記事】について、班員からアドバイスをもらって、推敲に役立てることになっています。次の資料【学習の流れ】、黒木さんが参考にした【グラフ】と、班での【話し合いの様子】を読んで、後の問いに答えなさい。

【学習の流れ】



【グラフ】



【新聞記事】

二年生の新しい種目、「障害物リレー」が大成功を収めました！

涙のかけに―誕生に隠されたドラマ

九月十五日に開催された体育大会。全校種目や学年種目など、全二十五種目が行われたが、種目が決定するまでには隠されたドラマがあった。今年度の体育大会で好評であった二年生の学年種目、「障害物リレー」が誕生するまでの苦闘を実行委員の田中さんに取材した。

(黒木康一)

たいしたことではないから簡単に考えられる。一人二種目考えてきなさい。」と先生に言われた時、田中さんはそう思った。しかし、思ったようにはいかなかった。「玉入れ」と「大縄跳び」は、採用されなかった。見ていてつまらないし、すぐに終わってしまうと言われてしまったのだ。

見ていて楽しいものって何だろう？それに、「情熱・団結・感動！」というテーマに合うものではない。田中さんは、困ってしまった。母親に相談した。

「そうねえ、やつぱりリレーかしら。抜いたり抜かれたりして、順位が替わると、興奮するし、見ていて楽しいわよね。」

リレーはいいかも、と田中さんは思いました。しかし、普通のリレーはすでに種目にあるし、テーマにあまり合わないんじゃないか、と思いついた。目隠しリレーとか後ろ向きリレーとか、いくつか考えて思いついたのが障害物リレーだった。

さらに、団結するということから、三人四脚でリレーする形にしてみました。次に苦労したのが、障害物選びだった。難しくくて時間がかかるのはだめで、簡単すぎるといってもだめ。他の委員と何度か試してみた。そして、マットで前転、縄跳び、ハードルまたぎ、綱ぐりという形に決めた。田中さんは、何度転んだか覚えていないし、膝も肘も何回もすりむいたという。学年種目が終わった後、田中さんは泣いた。

その涙は、自分の学級が優勝したからというよりも、自分たちが苦労して作り上げた種目がうまくいった喜びによるものだったのだ。

【話し合いの様子】（一部）

後藤

【新聞記事】の「リレーはいいかも、と田中さんは思いました。」の部分の文末表現が他の文末と違うので統一する必要がありますと思います。

そうですね。その部分を他とそろえたいと思います。

岩切

この【新聞記事】は、とてもうまくまとめられていて読みやすかったです。ただ、何を最も伝えたかったのかを読者が一目でわかるように、見出しの文字を大きくすると思います。読者を意識することが大切です。

南

わたしも見出しについて意見があります。授業中に先生は、「見出しは、読者の目をひくために印象的な表現で、短く書くこと」と言われました。しかし、黒木さんの見出しは、少し長いので、短く書く必要があると思います。

黒木

確かに先生は、「見出しの文字数は七字から十一字程度で書くことが多い」とおっしゃっていたね。しかし、わたしは、その文字数通りにまとめるのは難しいので、七字以上、十三字以内で書き改めてみますね。

宮崎

わたしは、【新聞記事】に【グラフ】を掲載すると思います。

理由は、リード文で[ ]。さらに、田中さんたちが苦労して作り上げたものが、報われた結果が数字として示されていて、具体性があるからです。

（この後も話し合いは続く）

問一

黒木さんは、南さんのアドバイスを受けて、【新聞記事】の見出しである「二年生の新しい種目、『障害物リレー』が大成功を収めました！」を書き改めることにしました。  
黒木さんはどのように書き改めるのが適切か、現在使われている見出しを利用して書き改めなさい。

問二

宮崎さんは、【話し合いの様子】で黒木さんどのようなアドバイスをしたのか。宮崎さんの発言の[ ]を【新聞記事】のリード文を参考にしながら、「根拠」、「説得力」という二語を必ず用いて、五十文字以上、六十文字以内で、話し言葉の形で書きなさい。  
ただし、「」は付けなくてよいものとする。